

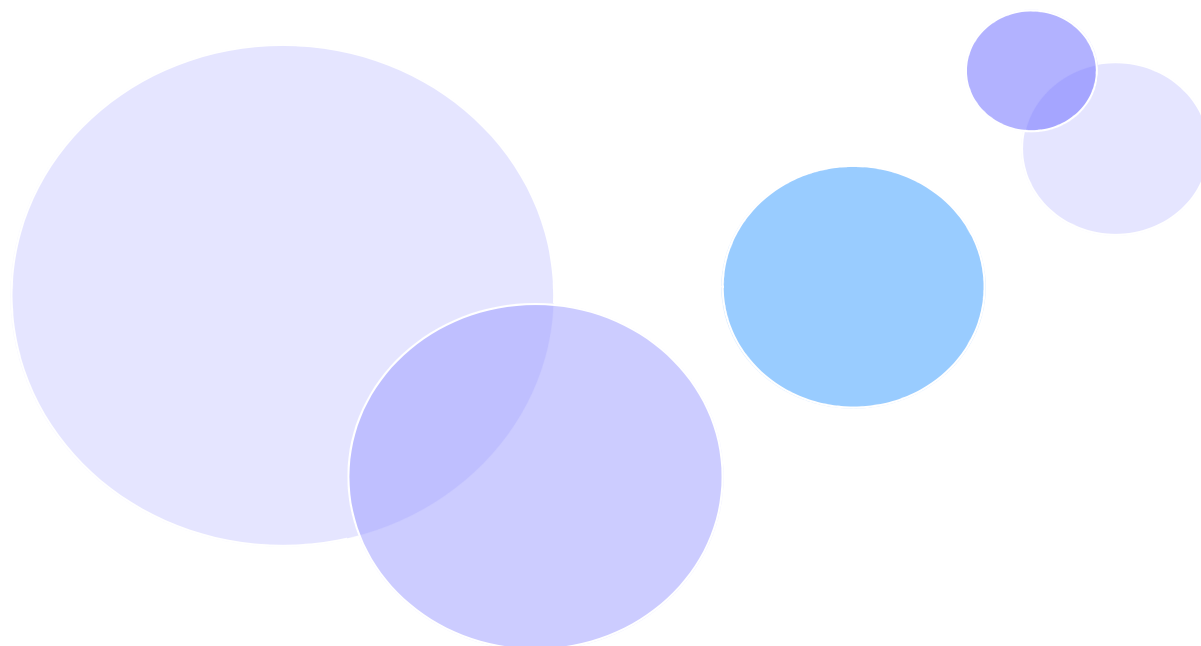


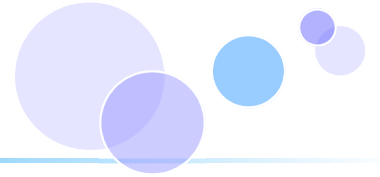
日本ヒューム株式会社

# 2021年3月期第2四半期 決算説明資料

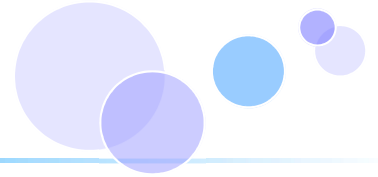
2020年11月17日

証券コード 5262  
東証一部





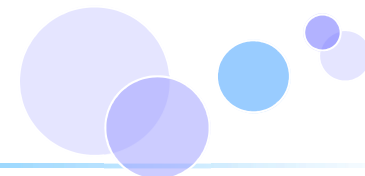
1. 2021年3月期第2四半期業績
2. 2021年3月期通期業績予想
3. 各事業における取り組み状況



1. 2021年3月期第2四半期業績
2. 2021年3月期通期業績予想
3. 各事業における取り組み状況

# 1. 2021年3月期第2四半期業績

## 日本ヒュームグループの事業概要



- 「社会基盤の整備に参加し、豊かな人間環境づくりに貢献する」を理念とした企業活動
- 連結子会社：9社、持分法適用関連会社：6社を含むグループで社会基盤の整備に貢献

### 下水道関連事業

- ヒューム管、セグメントなどコンクリート製下水道関連製品の製造
- PGF、壁高欄などコンクリート製道路関連製品の製造
- 下水道関連の工事（管渠更生など）

<連結子会社>

- 東邦ヒューム管株式会社
- 日本ヒュームエンジニアリング株式会社

### 太陽光発電・不動産事業

- 不動産の賃貸、管理及び開発
- 環境関連機器の販売及びメンテナンス

<連結子会社>

- 株式会社環境改善計画
- 株式会社ヒュームズ

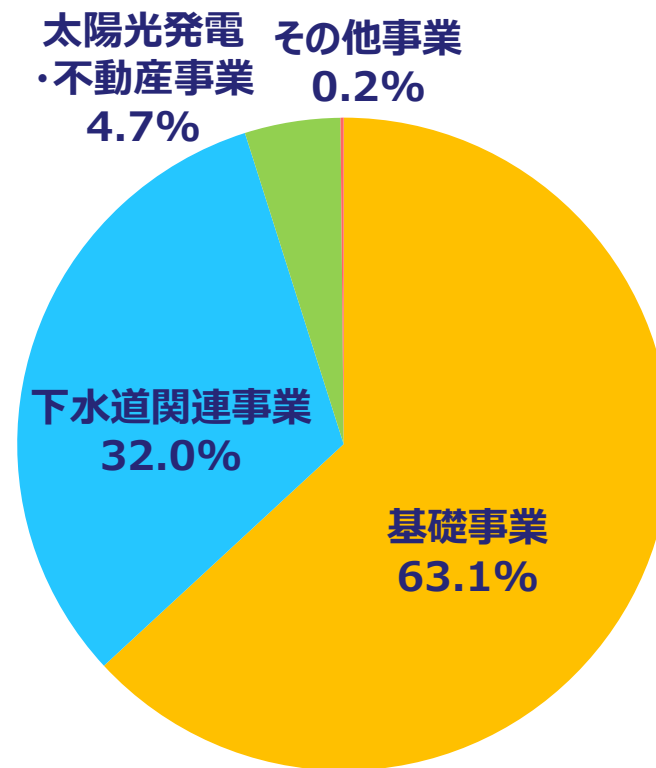
### 環境・衛生システム(コンサル)

株式会社環境改善計画

- オゾン脱臭システム
- 環境（空気・水等）の浄化システム
- 環境・衛生コンサルティング

### 売上構成(2021年3月期第2四半期)

連結売上高：15,045百万円



### 基礎事業

- コンクリートパイルの製造・販売
- コンクリートパイルの施工
- PCウェルの製造
- コンクリート製品用型枠の販売
- コンクリート製品用資材の販売

<連結子会社>

- 技工曙株式会社
- 株式会社エヌエイチ・フタバ
- ニッポンヒュームインターナショナルリミテッド 他海外2社

### 鉄工・鉄筋

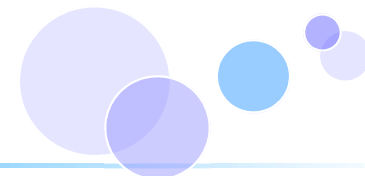
技工曙株式会社、株式会社エヌエイチ・フタバ

- 管路用・基礎用製品の型枠、及びその周辺部品

### その他事業

- レンタル事業

# 1. 2021年3月期第2四半期業績 日本ヒュームグループの事業概要



## 下水道関連事業



ヒューム管



合成鋼管



RCセグメント

その他プレキャスト製品



マンホール耐震化工事



管渠更生工事



壁高欄

## 基礎事業



パイル製造



パイル施工



PCウェル

## 太陽光発電・不動産事業

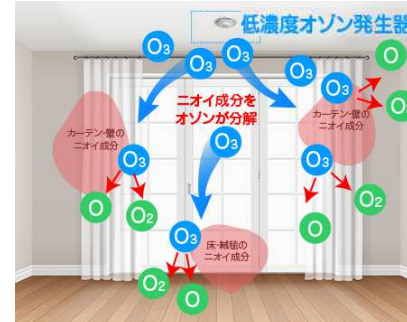


新橋NHビル



NH東北太陽光発電所

## 環境・衛生システム(コンサル)

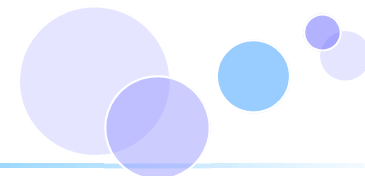


## 鉄工・鉄筋



# 1. 2021年3月期第2四半期業績

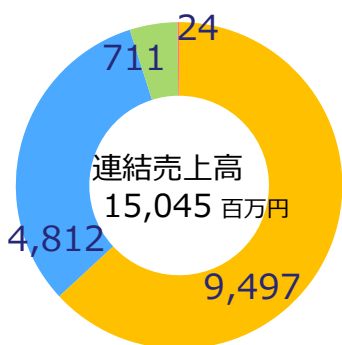
## ① 2021年3月期第2四半期業績総括



### 連結業績短評

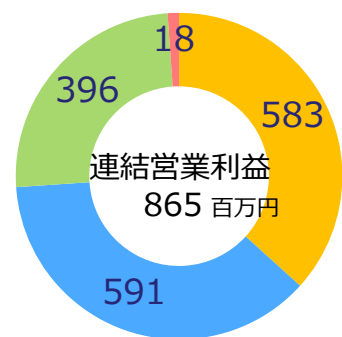
- 公共事業に関しては前年同水準で推移も、民間投資下振れによる需要減が影響し、前期比で売上・利益ともに減少。

### 売上高



基礎事業	9,497百万円	△ 1,755百万円 △ 15.6%	● 全体需要減に伴い減収
下水道関連事業	4,812百万円	△ 270百万円 △ 5.3%	● コロナ禍による工事遅延に伴う売上減
太陽光発電・不動産事業	711百万円	+ 13百万円 + 1.9%	
その他事業	24百万円	△ 56百万円 △ 70.1%	

### 営業利益



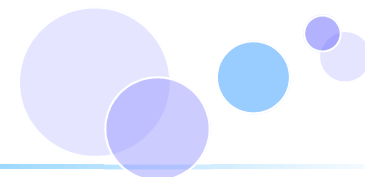
基礎事業	583百万円	+ 27百万円 + 5.0%	● 選別受注による利益率向上、利益増加
下水道関連事業	591百万円	△ 88百万円 △ 13.1%	
太陽光発電・不動産事業	396百万円	△ 15百万円 △ 3.7%	
その他事業	18百万円	+ 1百万円 + 11.2%	

当第2四半期においては、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う民間投資低迷等の影響から、売上高は基礎事業、下水道関連事業共に減少しましたが、選別受注及び原価低減により基礎事業の営業利益は増加しました。

太陽光発電・不動産事業においては、安定して前年と同水準で売上、利益共に推移しました。

# 1. 2021年3月期第2四半期業績

## ② 連結損益計算書



(単位：百万円、%)

	2020年3月期 第2四半期		2021年3月期 第2四半期(期初予想)		2021年3月期 第2四半期				コメント
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	前期比		
							増減額	増減率	
売上高	17,115	100.0	15,000	100.0	15,045	100.0	△2,069	△12.1	基礎事業・下水道関連事業での民間投資の低迷に伴い減少
営業利益	930	5.4	600	4.0	865	5.7	△65	△7.0	コスト未消化の影響で利益率向上
経常利益	1,658	9.7	1,000	6.7	1,517	10.1	△141	△8.5	
当期純利益(※)	1,293	7.6	800	5.3	1,149	7.6	△143	△11.1	
減価償却費	311	-	-	-	304	-	△7	△2.5	

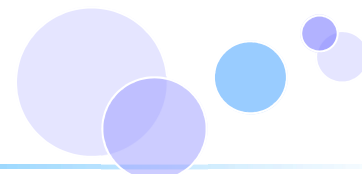
(※)親会社株主に帰属する当期純利益

売上高は、コロナ禍における民間投資の低迷等により対前年同期比で12.1%減の150億45百万円となりました。営業利益は売上高減少に伴い対前年同期比で減少となりましたが、コスト未消化及びコロナ禍における経費削減等により営業利益率を改善し、8億65百万円となりました。

経常利益、当期純利益につきましては、対前年同期で比べると売上高減少に伴う影響で減少しておりますが、コスト未消化及びコロナ禍における経費削減等により計画を上回りました。

# 1. 2021年3月期第2四半期業績

## ③ 連結貸借対照表



(単位：百万円)

	2020年 3月期 第2四半期	2020年 3月期 期末	2021年 3月期 第2四半期		2020年 3月期 第2四半期	2020年 3月期 期末	2021年 3月期 第2四半期
<b>流動資産</b>	<b>24,904</b>	<b>25,369</b>	<b>23,931</b>	<b>流動負債</b>	<b>12,262</b>	<b>12,297</b>	<b>10,925</b>
(現金及び預金)	10,421	10,376	11,118	(短期借入金)	1,012	944	937
(棚卸資産)	3,241	2,952	3,239	<b>固定負債</b>	<b>3,660</b>	<b>3,522</b>	<b>3,528</b>
<b>固定資産</b>	<b>23,750</b>	<b>23,609</b>	<b>24,996</b>	<b>負債合計</b>	<b>15,923</b>	<b>15,819</b>	<b>14,454</b>
(有形固定資産)	9,687	9,265	9,452	<b>株主資本</b>	<b>31,935</b>	<b>32,582</b>	<b>33,242</b>
(無形固定資産)	87	119	196	(自己株式)	△2,014	△2,073	△2,127
(投資その他の資産)	13,975	14,223	15,347	<b>純資産合計</b>	<b>32,732</b>	<b>33,159</b>	<b>34,474</b>
<b>資産合計</b>	<b>48,655</b>	<b>48,978</b>	<b>48,928</b>	<b>負債・純資産合計</b>	<b>48,655</b>	<b>48,978</b>	<b>48,928</b>

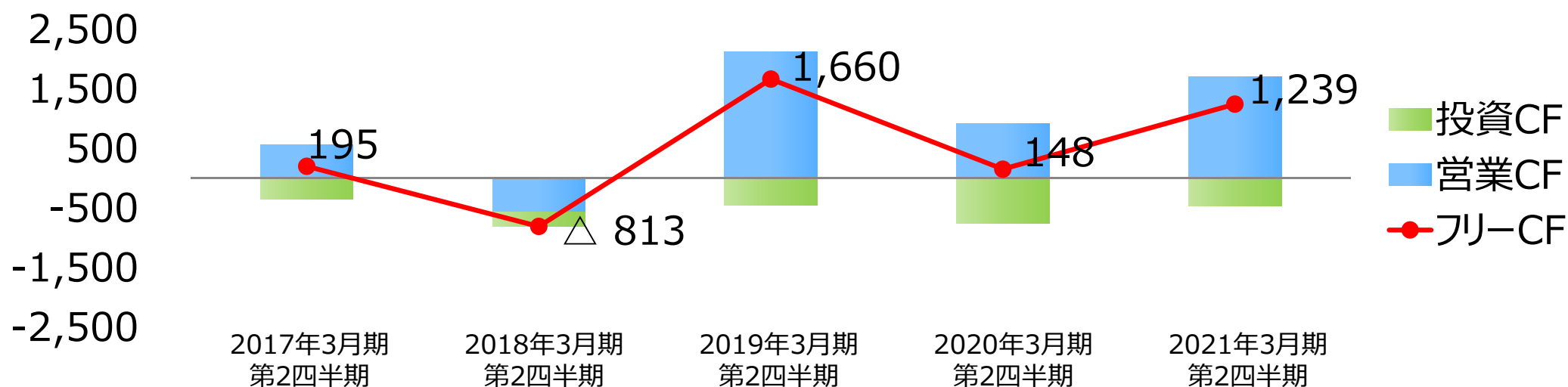


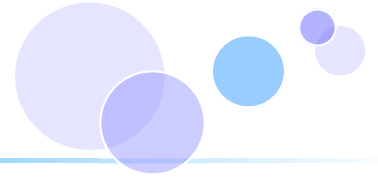
# 1. 2021年3月期第2四半期業績

## ④ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

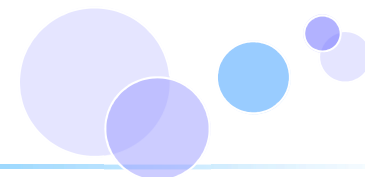
	2020年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	913	1,706	793
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 764	△ 467	297
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 783	△ 491	291
現金及び現金同等物の期末残高	10,379	11,076	696





1. 2021年3月期第2四半期業績
2. 2021年3月期通期業績予想
3. 各事業における取り組み状況

## 2. 2021年3月期通期業績予想



### 業績見通し

- 民間投資は下振れも、公共事業については堅調に推移。
- 基礎事業はコロナ禍の全体需要低迷から更なる競争激化を予想。
- 下水道関連事業は引き続き防災関連の高付加価値製品の売上を見込む。

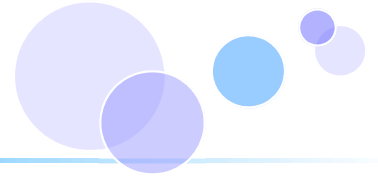
### 数値予想

	2020年3月期		2021年3月期			
	金額	構成比	金額	構成比	前期比	
					増減額	増減率
売上高	35,051	100.0	34,000	100.0	△1,051	△3.0
営業利益	1,811	5.2	1,700	5.0	△111	△6.1
経常利益	2,642	7.5	2,450	7.2	△192	△7.3
当期純利益(※)	2,105	6.0	1,800	5.3	△305	△14.5

(※)親会社株主に帰属する当期純利益

(単位：百万円、%)

(注)新型コロナウイルス感染症拡大による影響が今後どのように推移していくかは現時点で予想しがたく、発表した数値の変更が必要となる場合には速やかに開示致します。



1. 2021年3月期第2四半期業績
2. 2021年3月期通期業績予想
3. 各事業における取り組み状況

### 3. 各事業における取り組み状況

## 基礎事業における取り組み状況

### 業界背景

- 需要低迷による価格競争の激化
- 各社の技術開発による既製コンクリート杭の大径化、高支持力化

### 日本ヒュームグループの取り組み

- 新工法（HiFB II 工法）の販売開始  
（プレボーリング拡大根固め工法）

#### 【新工法概要】

- ・国土交通省大臣認定取得(7月28日取得済)
- ・プレボーリング拡大根固め工法で業界トップクラス(※)の支持力

(※)当社調べ、ストレート系

2020年8月24日 ▶  
セメント新聞記事



日本ヒューム  
HiFB II 工法 国交大臣認定を取得

支持力増加でコスト低減

総合コンクリート製品メーカーの日本ヒュームは、高支持力プレボーリング拡大根固め工法「HiFB II（ハイエフビーツー）工法」を開発し、このほど国土交通大臣認定を取得した。ストレート掘削でストレート杭を使用する工法で、同種の工法では最大の先端支持力を発揮し、コスト低減も可能となった。これを機に既存の杭工法に加え新たな主力工法として積極的に営業展開を図る方針。

日本ヒュームは2007年、ストレート掘削で開発したHiFB IIは、ストレート杭を使用するHiFB IIは、これまで引き上げたのが最大の特徴。さらにS工法が採用可能になり、また、掘削径を杭径の1.5倍にすることで、掘削径の選択により最適支持力を実現する。適用範囲における杭先端地盤種別は砂質地盤と礫質地盤。最大施工深さは砂質で63m、礫質で66m。杭径（先端部径）は直径300〜1200mmとなっている。従来は、掘削機を装着して、掘削液を注入しながら掘削孔を造成する。今回は、掘削機を装着して、掘削液を注入しながら掘削孔を造成する。今回は、掘削機を装着して、掘削液を注入しながら掘削孔を造成する。

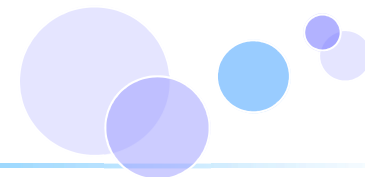
ストレート掘削でストレート杭を使用する工法の中ではα値が業界トップに

は、同等の基礎を構築する場合20〜30%のコストダウンが可能となった。同社ではHiFB II開発後、他社の新工法開発状況を注視しながらハイジョンアップを検討していたが、市場ニーズが明確にコストを上回ると判断、18年に本格的に着手した。今回、大臣認定を得たことにより、ストレート掘削でストレート杭を使用する工法の中でα値が業界トップになり、シェア拡大を狙う方針。

施工は、掘削機を装着して、掘削液を注入しながら掘削孔を造成する。

### 3. 各事業における取り組み状況

## 浸水対策事業における取り組み状況

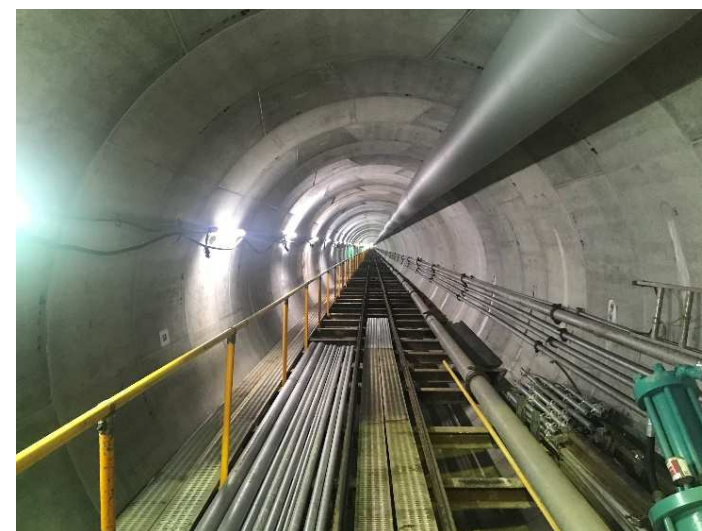
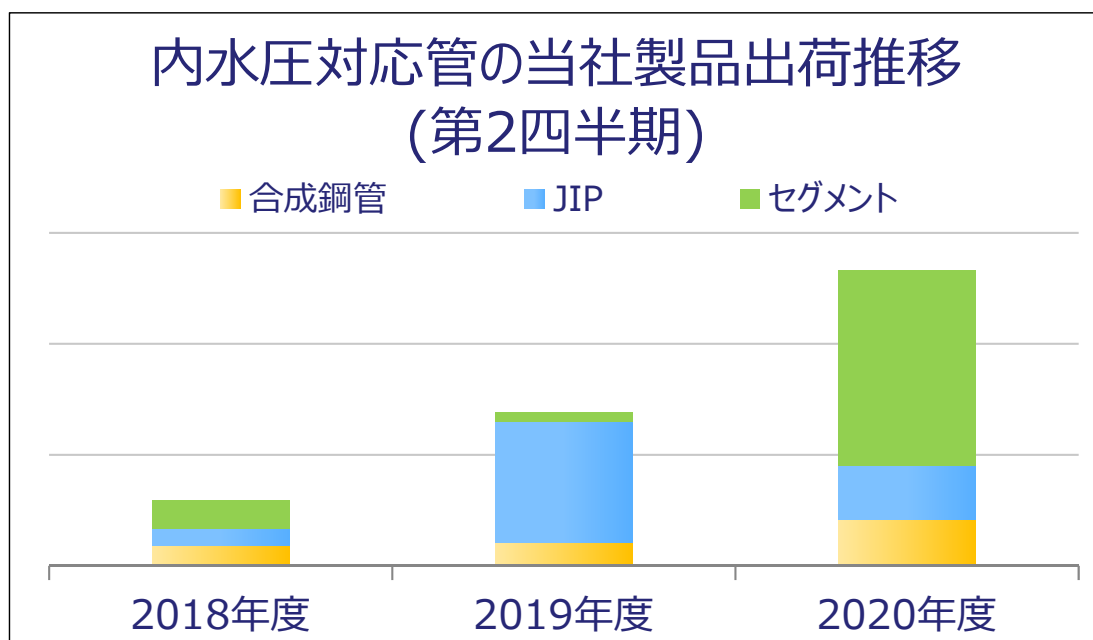


### 業界背景

- 気候変動がもたらす集中豪雨対策として、全国各地で浸水対策事業が拡大

### 日本ヒュームグループの取り組み

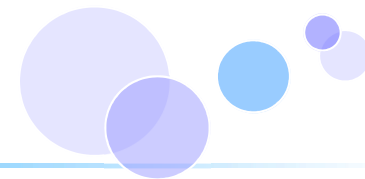
- 雨水貯留管、雨水幹線等に対する、内水圧対応管の提供  
(高水圧や大深度、急曲線に対応する高付加価値製品の設計・製造)



雨水貯留管：RCセグメント(東北地方某所)

### 3. 各事業における取り組み状況

## プレキャスト製品事業における取り組み状況



### 業界背景

- 労働人口減少によるプレキャスト製品の採用増（現場作業の簡素化）
- 高度経済成長期に設置された施設の老朽化進行

### 日本ヒュームグループの取り組み

- 社会ニーズの高い製品の規格化、開発及び販売
- 水道用弁室：バルブボックスの開発（可変型枠による柔軟な製品提供）



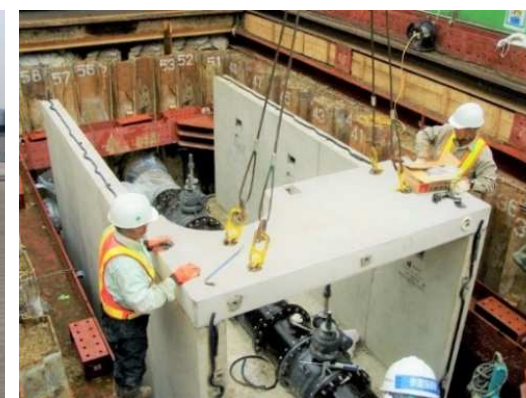
ボックスカルバート



PCウェル



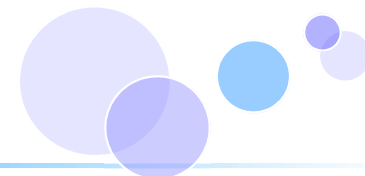
壁高欄



バルブボックス

### 3. 各事業における取り組み状況

## 中期経営計画における各戦略の実施状況



### 経営基盤強化戦略

中期経営計画		ESG経営			
基本戦略		E	S	G	実施状況
<b>② リスク管理体制の強化</b>					
リスクマネジメント委員会の設置、ガバナンス強化				●	業績連動型株式報酬制度の導入
<b>⑤ 計画的な人材育成、教育の強化</b>					
系統的な教育の実施、メンター制度の導入			●		社員スキル可視化システムの導入

### グループ成長戦略

<b>① 事業領域拡大への戦略的な取り組み</b>					
再生利用可能エネルギー事業関連製品の提供		●			環境負荷軽減 ⇒ 風力発電事業での製品提供
<b>③ 次世代製品、工法開発の戦略的な取り組み</b>					
環境に配慮したコンクリート製品の開発・製造		●			環境負荷軽減 ⇒ セメントレス下水道管材の開発





NIPPON HUME  
Group

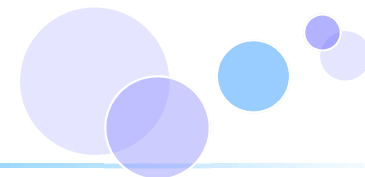
【将来に関する記述等について】

本資料は、発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る仮定を前提としており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

今後、実際の業績は、金融市場の動向、経済の状況、競合の状況や地価の変動の他、様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

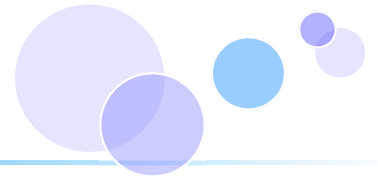
【数値表記について】

百万円未満は切り捨てで表示しております。そのため、一部合計数値が一致しないところがございます。

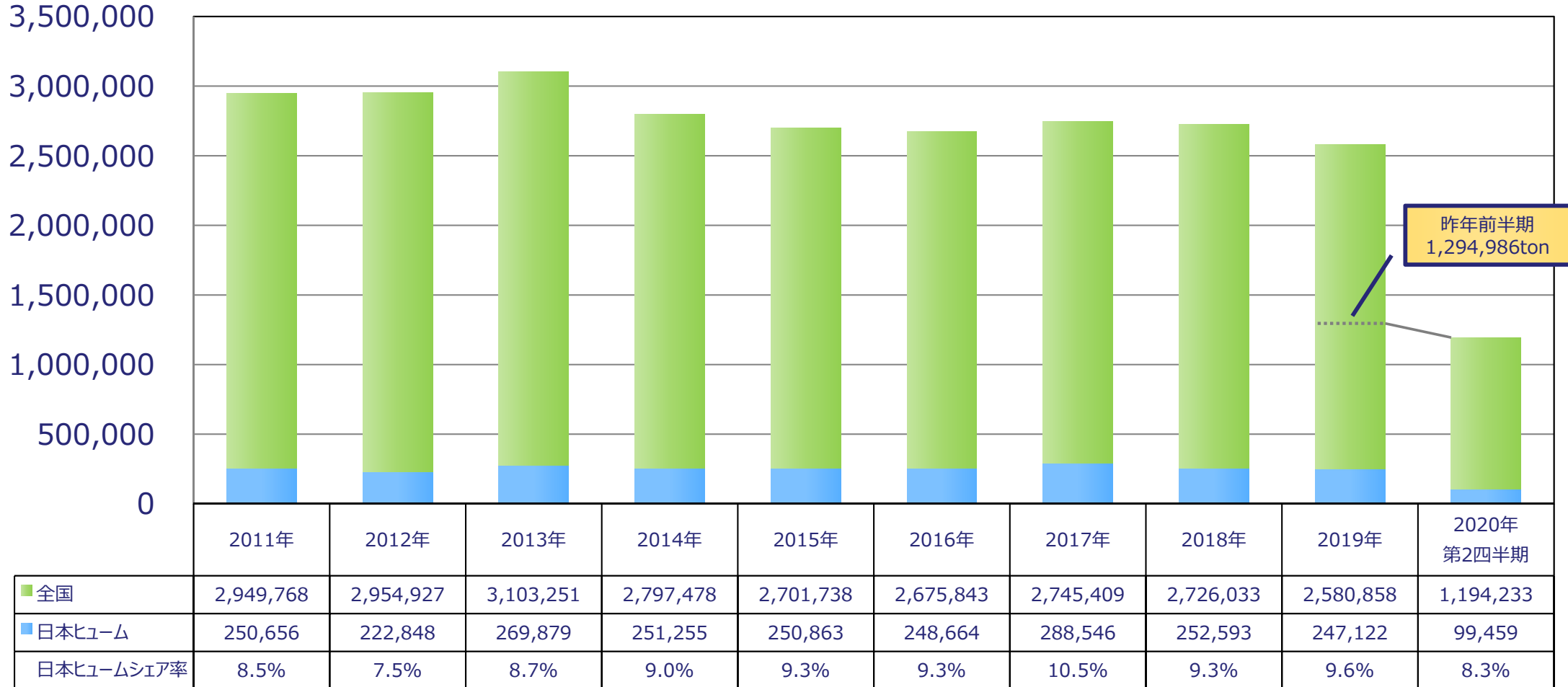


# 参考資料

# 業界データ（基礎事業）：パイル需要推移



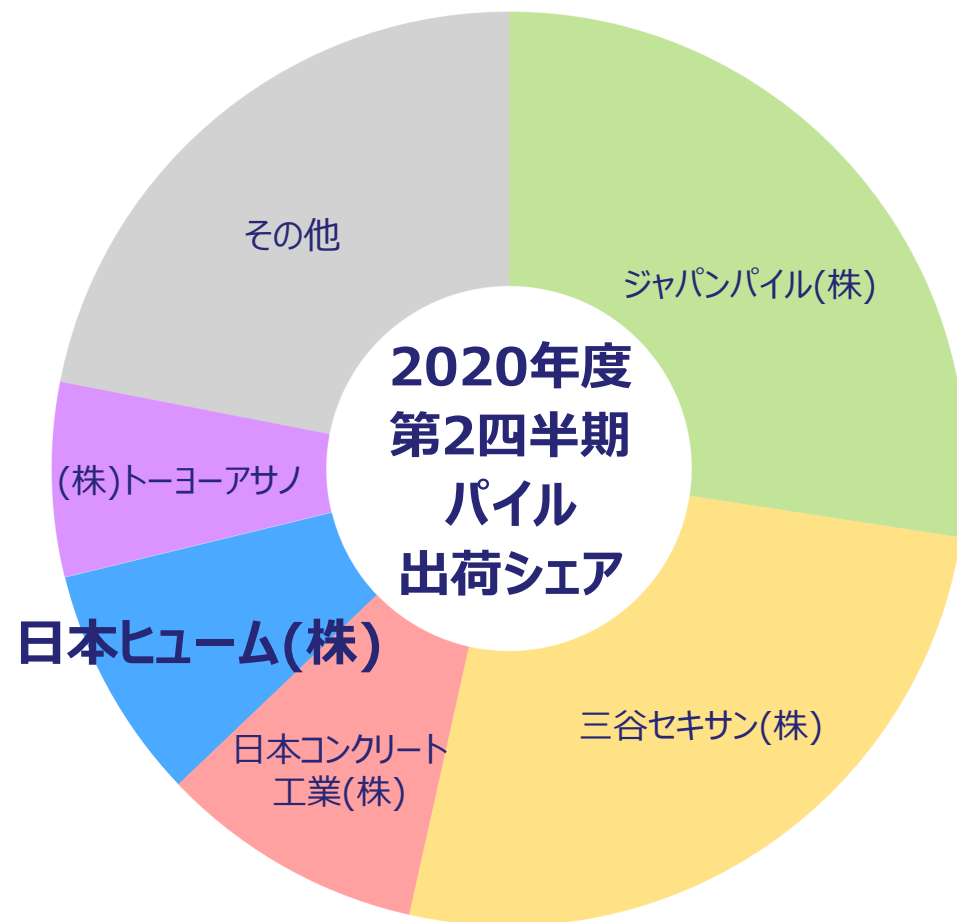
(単位：ton)



(出典：コンクリートパイル・ポール協会資料より算出)

# 業界データ（基礎事業）：2020年度第2四半期パイル出荷実績

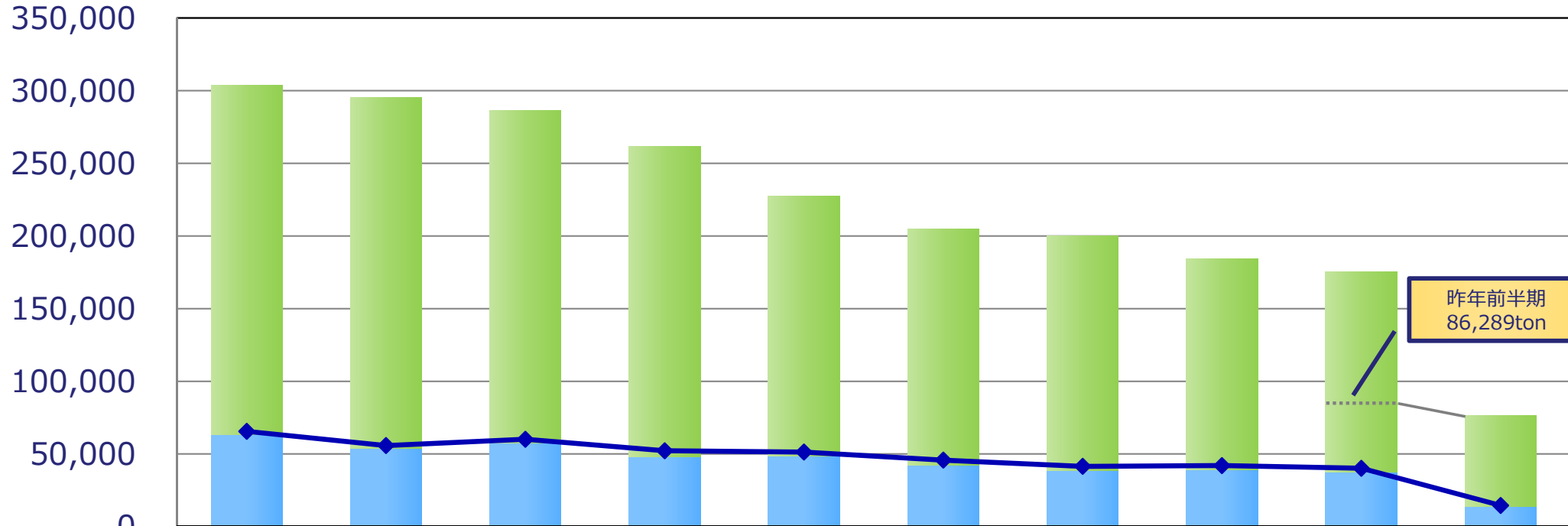
	会社名	出荷量 (ton)	シェア	前年 同期比
1	ジャパンパイル(株)	327,574	27.4%	-1.0%
2	三谷セキサン(株)	311,322	26.1%	+1.2%
3	日本コンクリート工業(株)	111,929	9.4%	+0.4%
4	日本ヒューム(株)	99,459	8.3%	-0.1%
5	(株)トーヨーアサノ	81,938	6.9%	+2.0%
6	前田製管(株)	52,154	4.4%	+0.2%
7	日本高圧コンクリート(株)	32,739	2.7%	-0.0%
8	マナック(株)	30,990	2.6%	-0.4%
	その他	146,128	12.2%	-2.3%
	合計	1,194,233	-	-



(出典：コンクリートパイル・ポール協会資料より算出)

# 業界データ（下水道関連事業）：ヒューム管需要推移

(単位：ton)

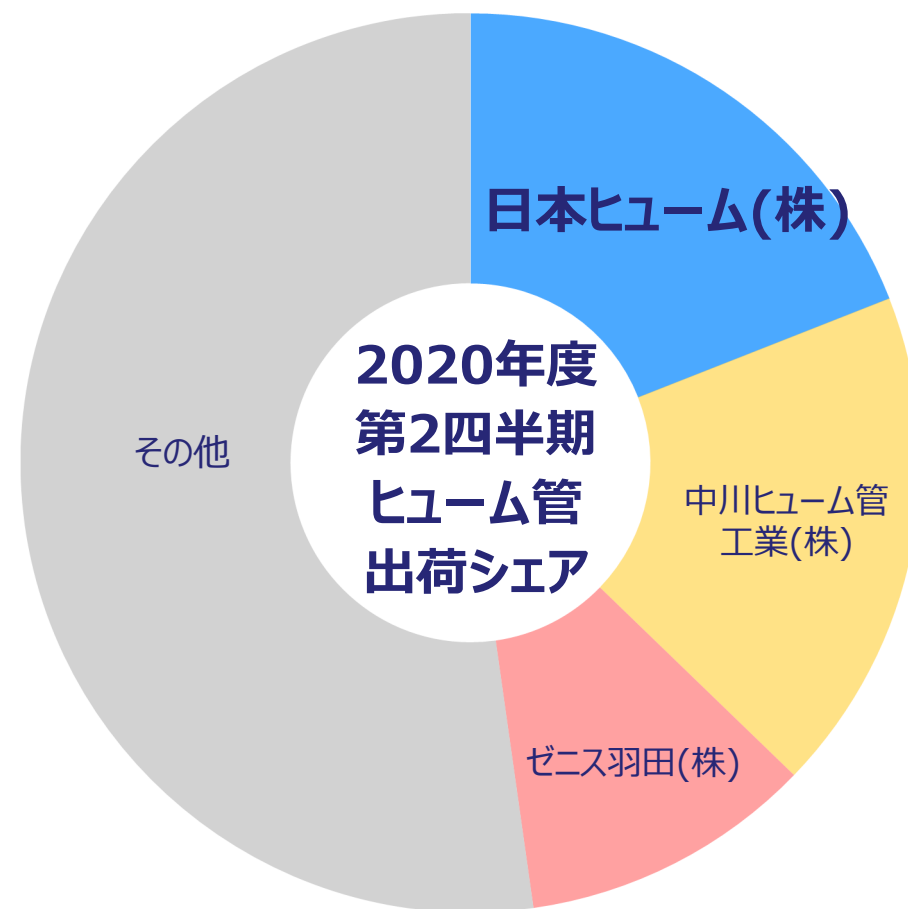


	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年 第2四半期
■ 全国	303,686	295,288	286,538	261,630	227,203	204,896	200,138	184,450	175,235	76,574
■ 日本ヒューム	62,747	53,571	57,073	47,440	48,143	41,716	37,864	38,818	36,941	13,086
◆ 日本ヒュームGr	65,560	55,802	60,135	52,219	51,315	45,747	41,480	42,023	40,148	14,573
日本ヒュームGrシェア率	21.6%	18.9%	21.0%	20.0%	22.6%	22.3%	20.7%	22.8%	22.9%	19.0%

(出典：全国ヒューム管協会資料より算出)

## 業界データ（下水道関連事業）：2020年度第2四半期ヒューム管出荷実績

	会社名	出荷量 (ton)	シェア	前年 同期比
1	日本ヒューム(株)	14,573	19.0%	-6.9%
2	中川ヒューム管工業(株)	13,934	18.2%	-1.3%
3	ゼニス羽田(株)	8,066	10.5%	-0.1%
	その他	40,001	52.2%	+8.3%
	合計	76,574	-	-



※日本ヒューム(株)の数値は、持分法適用会社である  
東京コンクリート工業(株) (株式40%保有) の数値を含みます  
(出典：全国ヒューム管協会資料より算出)